

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300099		
法人名	医療法人社団 平成会		
事業所名	健康倶楽部郡山 グループホーム「エスポワール」		
所在地	福島県郡山市御前南5丁目139番地		
自己評価作成日	令和2年9月10日	評価結果市町村受理日	令和2年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和2年11月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・法人で研修体制を整えており、中途採用者も研修を受け、初心者でも理解が出来るよう、介護の基本や具体的な介護の方法なども勉強できる機会を設けている。また、毎月、勉強会の機会を設け、スキルアップにつなげている。防災についても、訓練のほか消防署員に教えて頂く機会があり、素朴な質問などを通じて勉強できる機会がある。看取りの勉強会や身体拘束廃止にも取り組み勉強会を開催し、ご利用者様の意向に沿ったケアが出来るよう努めている。

・今年度は新型コロナウイルスの影響で、地域密着型の関わりが難しい為、ブログ等を通じて施設と地域の関わりが出来るよう工夫している。

・例年通りの開放的な行事が出来ないが、ご利用者様の要望に沿った内容で夏祭りや七夕など季節の行事を開催し、全員が参加できるレクなどを行い、ご利用者様に喜んでいただける施設作りに取り組んでいる。

・事故防止に取り組み、他施設の事故の水平展開、自事業所のインシデント分析を行う事で大きな事故がなく安全に過ごして頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. コロナ禍による外出自粛のため、ドライブで車窓からの紅葉見物や事業所周圍の散歩、庭での外気浴を行ったり、室内で貼り絵作成や笑いヨガなど、工夫しながら利用者のストレス解消に努めている。

2. 利用者の意見・要望を聞く場として「ハナミズキ会」をつくり、行事や献立などについて話し合い意見などを運営に活かす取り組みを行っている。

3. 消防署立会の総合避難訓練を運営推進会議に合わせて実施し、消防署員との懇談会で避難対応について理解を深めていただく他、マニュアルに基づいた自主訓練だけではなく夜勤職員1人でのとっさの行動訓練「ワグドキ訓練」を取り入れている。また、KYT(危険予知トレーニング)研修を行い、ヒヤリ・ハットや事故防止のための危険感受性訓練をするなど、法人全体で利用者の安全・安心の確保に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を決める際は、毎年、職員に意見を出してもらい、意見交換しながら決めている。来所されるお客様にも見て頂けるよう玄関に掲示し、職員がいつも目に見える場所に掲示することで、お客様の思いに寄り添えるようにしている。地域との交流に努められるよう理念として取り入れている。	理念は、法人理念を基に地域密着型サービスの意義を踏まえ、年度末に職員会議で意見を出し合い見直しをしている。また、玄関と職員休憩室へ掲示し、常に振りかえり職員間で共有し実践へ繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、回覧板で地域の行事を知る機会があり、例年参加しているが、今年は新型コロナウイルスの影響で参加できていない。参加できるようであれば、文化祭から参加を考えている。日常的には、近所へ散歩し近隣の方とあいさつを交わすなどし、交流を深めている。夏祭りなどは例年、近隣の方へお知らせし参加して頂いている。	地域公民館の文化祭へ利用者の作品出展と見学に出かけたり、中高の職場体験や大学生の実習などの受け入れ協力や事業所の夏祭り行事案内を戸配する等、地域交流に取り組んでいる。また、地域の認知症サポーター養成講師を務め、事業所への理解を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は中止となってしまったが、近隣の高校生や中学生の職業体験などを通じて認知症の方への関わりを増やし、理解して頂ける機会を設けている。また、認知症サポーター養成講座などで講師を務め、地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議は新型コロナウイルスの影響で開催できていないが、開催月には事業所の取り組みなどを郵便でお知らせし、必要に応じていつでも意見が聞ける体制づくりをしている。また、挨拶などに伺い近況をお知らせしている。	定期的開催し、また運営推進会議に合わせ総合避難訓練を実施し、訓練終了後消防署職員と懇談会をし現状を理解していただいている。法人内で事故の水平展開を行い、事業所対応等について委員から率直な意見をいただきサービス向上に活かしている。なお、今年3月からコロナ禍により休止となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウイルスの影響で難しい状況にあるが、例年、市の介護サービス相談員の方と毎月関わる機会があり、連携を図りご意見を頂いている。他施設の情報などを伺いより良いケアに活かしている。コロナへの取り組みなどは必要に応じてアンケートなどを通じて連携が取れている。	市主催のSOS見守りネット連絡会・地域包括主催の三者会議へ積極的に参加し、市担当者・地域の介護事業所と意見交換や情報の収集を行っている。また、必要時には法人の統括事務所を通し事業所状況を報告するなど、協力関係を築く取り組みを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の開催が3か月に1回あり、また勉強会も委員会に合わせて行い、身体拘束廃止指針の確認や具体例などを通じて勉強する機会がある。日常の不適切なケアが身体拘束につながることを意識してお互いが指摘し合える関係で取り組んでいる。	指針に従い定期的に身体拘束委員会を開き、同時に勉強会を行う他に、法人内研修も実施している。また、日々介護職員のみならず看護師が、身体状況・皮膚観察を行うなど複数の目で注意を払い、身体拘束をしないケアの実践に法人全体で取り組んでいる	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法などに関する勉強会を開催し、不適切なケアや声掛け一つでも拘束につながることを意識し、注意することが出来ている。日常のケアがグレーゾーンではないか振り替える機会を持っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修で介護保険制度について学ぶ機会があり、中途採用者も勉強の機会があり、またお客様で成年後見制度を利用されていた方もおり、支援が出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用開始前や、介護保険制度改定時などは重要事項説明書や契約書にてわかりやすく説明し理解を得ている。わからないことはいつでも聞けることを伝え、都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様の要望はハナミズキ会や日常の会話の中で伺い、ご家族様からはアンケートや、面会簿のメモ欄を利用して伺ったりしている。例年は家族交流会や運営推進会議でも意見を伺っている。玄関にご意見箱を設置しいつでもご意見を伺えるようにしている。頂いたご意見や改善策は掲示し、郵送し対応している。	利用者との日々のふれあいのほか、利用者とは話し合う「ハナミズキ会」をつくり意見・要望を聞いている。家族からは、運営推進会議や年1回無記名の「お客様アンケート」、面会時で意見・要望を聞く機会を設け、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催する部門会議や会議前の月初めに事前に意見を聞く機会があり、要望なども聞き、部門会議の議題にしたり、ミーティングで対応している。必要時には上司に報告し対応している。目標管理の個人面談時、困りごとや意見希望などを聞くようにしている。話しやすい雰囲気作りにも気を配っている。	各種委員会活動に職員が所属し、各委員会での話し合いや職員会議で意見・提案を出してもらっている。また、意見を出しやすくするため毎月個別に要望メモを渡し、意見・提案を聞く工夫をし、出されたものを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援や職員個々の目標設定時にはやりがいをもって行えるよう、得意なことを聞いて取り入れるなどし、向上心を持って取り組めるようにしている。職務に関しては、毎月希望日に休めるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での階層別研修(中途採用者も参加)に参加し、ケアの向上につなげるようにしている。毎月、様々な勉強会を開催し学ぶ機会を持っている。勉強会を開催することで資料の準備や自らの向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入会し、管理者は機会があれば地域の情報交換会に参加、また、郡山市で開催している講習会や認知症サポーターの交流会に参加し交流している。またCMが地域のケア会議に参加するなどしている。法人内では研修や防災訓練を通じて交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には実態調査を行い、ご本人様やご家族様の困りごとや不安などを聞くようにしている。聞いた内容はカンファレンスなどで情報を共有し、安心して頂けるようケアプランに取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みがあった時や実態調査時などにご家族様の困りごとや不安、要望に耳を傾け、伺った要望などをサービスに取り入れることで関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容から、どのような支援を必要としているか見極め支援している。「その時」のニーズによって必要であれば他の介護サービスにつなげられるよう説明や支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者様は介護される側とする側でなく、共に支え合える関係で、お客様から様々なことを教えて頂いたりしている。お客様同士が生活レクや生活リハなどで協力して行える場面を作り支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様のご様子を毎月の広報誌や電話でごまめにお伝えし、家族との絆がつながるよう支援している。例年ご家族様の参加できる行事を企画し、関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様と協力し、買い物や受診時の外出などを支援している。お手紙が届いた際も、一緒に読むことで関係が継続するよう努めている。ご家族様の面会時は、新型コロナウイルスの影響で事務所ではあるが、短い時間でもゆつくりと過ごせるよう工夫し、好きな飲み物を飲みながら過ごして頂いている。日常のご様子をお知らせすることで馴染みの方との関係が継続するよう支援している。	入居後に馴染みとなった訪問理容師や以前利用していた併設の事業所を訪問し知人と親しく話したり、友人への手紙の支援を行っている。また、コロナ禍により家族面会を市内在住者の事前予約を受け、ゆつくり過ごせるよう配慮し、家族との関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った方とゆっくりと過ごせるよう席の工夫や職員が仲介することでご利用者様が心地よく過ごせるよう支援している。レクなども一緒に楽しみながら行えるよう職員が間に入りお互いが支えられる関係が作れるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院となり、契約が終了したのちも、電話で近況を伺ったり、ご家族様の困りごとを聞いたりし関係を断ち切らないようにしている。また、ご逝去時などは懐かしいお話を伺うなどし、継続した支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ハナミズキ会でご意見やご要望を伺い、ご利用者様に合った暮らしが出来るよう支援している。日常の会話やご家族様に以前のご様子などを伺うことで本人の意向を探っている。ご意向などはカンファレンスや申し送りで情報の共有をし、ケアにつなげている。	居室担当職員が日々のふれあいの何気ない会話や、「ハナミズキ会」での話し合いで意向や希望の把握に努めている。困難な場合は、家族からの情報などから本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様に今までの生活や趣味などを伺い、馴染みの暮らしが継続できるよう、職員間で情報の共有をし対応している。また、以前利用していた事業所から情報を聞いたりもしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを利用し、生活のリズムの把握に努めご利用者様の体調を把握したりできることの把握に努めケアに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当制をとり、ご利用者様毎に良い理解者となり関わることで意向を伺ったり思いを知ることが出来る。またご家族様のご意向も伺いケアに活かしている。ご意向と身体状況をもとにモニタリングを実施、ケアカンファレンスで職員が意見を出し、介護計画の作成をしている。3か月ごとに見直しを行い、現状に即したプランの作成を行っている。	入居前に管理者・介護支援専門員が訪問し、本人・家族からの思いや希望に沿った介護計画を3か月を目途に作成している。アセスメント、モニタリングを行い3か月ごとに見直しをしており、緊急時には随時見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿ったケアの実施、電子カルテへの入力、気づきや必要な工夫などは申し送りノートや棟ミーティングを行い、情報の共有を行っている。ケアカンファレンス時は職員が活発に意見を出し、介護計画の見直しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様のご様子を毎日の申し送りで情報の共有を行いその都度のニーズに合わせて柔軟に対応している。受診などもお客様の状態に応じて柔軟に対応している。外出外泊の支援も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響でボランティアの要請ができないが、訪問理容などは希望に応じていただき、生活の楽しみとして豊かな暮らしが出来るよう支援している。地域の図書館などへの定期的な外出も支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様が希望する医療機関で適切な医療が受けられるよう支援している。必要に応じて送迎なども行っている。通院が困難になった時は、ご家族様と話し合い、ご希望の訪問診療医に来ていただくことも支援している。適切な医療が受けられるよう日常のご様子を詳しくDRへ伝え支援している。	入居時、利用者・家族が希望する医療機関を選択している。かかりつけ医受診は、基本的に家族対応とし、健康状態記載の「受診記録票」を通し、主治医と情報の共有を図っている。通院が困難になってきた場合は、家族と相談の上、訪問診療医に切り替え適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で気づいたことや気になる情報は看護師へ報告し確認して頂いている。また夜間の急変時は看護師の指示を仰げる連絡体制をとり対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報の提供を行い、医療機関やご家族様とこまめに連絡を取り、情報の共有に努めている。入院中の面会もできるだけ行い、病院の関係者と連携を図り早期退院につなげられるよう支援している。ご家族様の要望があればムンテラに同席させていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時は重度化看取りに関する指針の説明を行い、書面で同意を頂くとともに、その段階でのご希望を伺っている。状態の変化に合わせてご意向は都度確認するようにしている。また、状態の変化により受診が難しく、ご家族様が訪問診療を希望されるときは、ご希望に沿う支援を行い、終末期への体制づくりを行っている。チームとして看取りに取り組めるよう勉強会も実施している。	入居時、指針に沿って対応できる内容について利用者・家族に説明し、書面で同意を得ている。また、状態の変化に伴い、その都度意向確認を行い、家族の希望に沿った支援が出来るよう努めている。看取り期は、家族・医師・看護師・職員等がチームを組み看取り介護計画のもと支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に対応できるよう勉強会を開催したり、消防署員講師による勉強会もあり、実践力を身に付けられるよう備えている。自施設の緊急時マニュアルもあり、マニュアルに沿って対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画に沿って毎月防災訓練を実施し、反省点を生かした訓練を行っている。火災・地震・水害想定で訓練を行うことで様々な災害に対応できるよう訓練を行っている。緊急連絡網、通報の訓練を通じて落ち着いて対応できるようにしている。例年9月に消防立ち合いの訓練を実施しているが、新型コロナウイルスの影響で今年度は、自施設内での訓練の予定。非常ベルを鳴らしたり、「ワクドキ訓練」を行うことでさらにレベルアップした訓練を行っている。ハザードマップの理解やアンダーパスについても情報の共有に努めている。	毎年、消防署立会いによる総合防災訓練を運営推進会議に合わせて実施し、消防署員との懇談会を行い理解を深めていただいている。また、毎月、夜間想定火災訓練・地震や水害の避難訓練を行い、時には夜勤職員1人で対応する「ワクドキ訓練」を取り入れ、職員の意識向上に繋げている。水・米・レトルト食品等を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様一人一人に対して人生の先輩という敬愛の気持ちをもって関わるようにしている。プライバシーポリシーの勉強会を実施し、お客様の居室に入る際や名前を呼ぶ際も不適切にならないよう注意し、職員間で指摘し合えるようにしている。重要な書類はカギ庫へ保管し、生活表やパソコンはふたを閉じるなどし管理している。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや態度に心がけ、職員間で気づいた時は、お互いに指摘し合える関係が出来ている。個人情報に関する重要書類等は、鍵付き書庫に保管し、情報を使用の際は家族の了解を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ハナミズキ会でご要望を伺い自己決定が出来るよう、小さなことでも伺うようにしている。洋服を決めたり、好きな飲み物、入浴時間など。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様それぞれのペースで過ごすことが出来るよう、好きな場所や見たい番組、その日によってその人らしい生活が出来るよう支援している。起床や就寝もその方に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洋服を選んだり、化粧水をつけたり、髪形もご希望を伺いカットして頂いている。パーマやカラーもご希望に応じて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	嗜好についてはハナミズキ会で伺い、行事食やおやつに反映させている。料理の盛り付けやデザートづくりの手伝い、食器洗いや食器拭き、食前のテーブル拭き等を一緒にやり、食事が楽しめるような支援を行っている。行事では牡丹餅作りやおにぎりづくり、焼きそばなどの鉄板を使ってのお手伝いなども行っている。またお誕生日会はその方のお好きな料理やケーキなどを準備し、主役として楽しめるよう工夫している。	利用者と職員が、料理の盛り付けやテーブル拭き、食器洗い等を一緒に行い、食事も会話をしながら楽しく摂っている。また、献立と食材は委託業者によるものであるが、事業所の畑で採れる旬の野菜も活用している。「ハナミズキ会」で献立や行事食などを話し合い希望食品を取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人の食事量を把握し、食事形態も食べやすい形状に工夫し提供している。盛り付けも工夫し小盛で提供したり、塩気が好きな方は、ご飯につくだ煮や梅干しをつけるなどし食事が進むよう工夫している。食事量が少なくなってきた方は、好きなものや召し上がれるもの、栄養補助食品などを準備し、また医師と相談しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後声掛けし、ご自分でできる方は洗面台まで移動してもらい行っている。できないところは介助させていただいている。その方の状態に合わせて対応し、医師とも相談させていただきながら支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、定時で誘導したり、トイレサインがある方は見逃さずに誘導し、トイレでの排尿を促している。排泄パターンは状況に合わせて対応し都度見直している。約6割のお客様は意思がはっきりしており、声掛け時、羞恥心に配慮し誘導などを行っている。	排泄チェック表や生活習慣から排泄パターンを把握し、プライバシー保護に心掛け定期的にトイレへの声掛け誘導を行っている。自分の思いを伝えられる利用者が多く、今後ともトイレでの排泄が維持継続できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンを把握し、乳製品を多く提供したり、運動を促したり、腹部マッサージなどを行っている。歩くことも大切にし、歩く機会を設けている。また、医師に相談しその方にあった薬の調節をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調確認をバイタルや様子をうかがうことで行い入浴して頂いている。入浴時間も好みがあり、またその日の気分に合わせて対応している。湯加減も都度声掛けしながら調整し、湯船につかる時間も体調を見ながら個々に支援している。洗身などはできる場所は行って頂き支援している。1対1でお話を伺い、入浴時は良く話される方も見られる。菖蒲湯やゆず湯なども実施している。男性の職員を嫌がる方は職員を変更し対応している。	入浴は、週2～3回を目安とし、1人毎にお湯の入れ替えを行っている。また、利用者のその日の体調や気分に合わせて支援し、入浴時はゆったりと会話を楽しみ、一人ひとりの思いを汲み取るよう努めている。季節を感じられるよう、ゆず湯、菖蒲湯等を取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼後などに居室で休まれる方はご自由に休んでいただき、また、その日の状況に応じて居室やソファで休んでいただくなどしている。気分よく休んで頂けるよう、エアコンや布団で調整し対応している。お好きな布団の好みもあり、その方に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人お一人に対応できるようお薬分包装や内服マニュアルなどを作成し、職員が理解できるようにし、薬の変更時も更新している。また副作用についても看護師や医師と連携し、内服後の様子には十分に注意している。内服方法についても確実に内服して頂けるよう、ゼリーを甘くするなど支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様やご本人様に生活歴などを伺ったり、日常の様子でお好きなことを知り、ケアプランに立案し支援している。お一人お一人が役割をもって生きがいを感じて頂けるよう、様々な支援をしている。嗜好品や楽しみについても、ハナミズキ会で伺ったり、日常の会話で伺いながら提供している。気分転換に1階や外に出るなどし、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には希望を伺いながら外や花壇・畑、散歩に行くなど支援している。また、図書館ドライブにも行く機会を設けている。花見や紅葉狩りなどは企画を立て出かけている。昨年は、アルパカを見に行ったり、犬のボランティアに来ていただくなどの支援をしている。希望のある方はご家族様の協力の元、外食・買い物などの機会も支援している。	昨年までと違って、今年はコロナ禍により外出は通院の他、事業所周辺の散歩や庭での外気浴を採り入れ、気分転換とストレス解消を積極的に図っている。また、今秋は車窓から眺める紅葉見学のドライブを計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお金の管理が難しい方が多く、ご家族様が管理している。今後もご希望に沿ってお金を使ったり、所持したりの支援をしていく。新型コロナウイルスの影響で買い物はできていないが、状況に応じて買い物などにも出かける予定。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご本人様の希望がある際は、いつでも電話が出来る支援している。職員がご家族様へ電話した際は、ご本人様が変わりお話しされることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のリビングは居心地がよく過ごせるよう、温度湿度管理を行い、調光にも注意し、カーテンで調整している。新型コロナウイルスの影響で空気の入れ替えや、手すりなどの消毒も行い、安全に過ごせるよう支援している。また、壁は季節ごとの飾り(花見、七夕、月見、季節の花など)を行い、季節感を感じて頂くよう工夫している。あまり飾りが派手になり施設感が出てしまわないよう注意している。	リビング・廊下・食堂の壁に、季節を感じるコスモス・紅葉・富士山等の貼り絵や行事・職員紹介の写真を飾り、落ち着いて過ごせるよう支援している。カーテンによる遮光や温湿度の調整、新型コロナウイルス感染予防対策としての換気や消毒が行われ、衛生管理に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内ではテレビ前と台所脇にソファを設置し、一人や仲の良い入居者様や職員と過ごせるよう支援しています。また、居室で本を読んだりテレビを見たり、気分転換に外に出てお話ししたりお好きな場所で過ごせるよう支援しています。1階の馴染みのお客様のところ行かれ、お話しできる機会も設けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	居室には、入居の際に馴染みの物や昔の写真などを持ってきて頂き安心して過ごせるようにしている。また、お好きな本やテレビを持ち込まれる方もおり居心地の良い空間づくりを支援している。洋服を選ぶのがお好きな方は選びやすいように配置している。入居後は毎年おひとりごとのカレンダーを作成し居室に掲示している。	居室は、家族と相談の上、馴染みのテレビ・寝具・カラーボックス・衣装ケース・家族写真等が持ち込まれ、プライバシーを守りながら居心地良く安心して生活が送れる環境を整備している。また、毎年一人ひとりが作成したカレンダーが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごせるよう、お客様それぞれの動線を考慮した座席にしている。日常生活の中で「できること」「わかること」を見極め、自立した生活を送れるよう職員間で情報を共有し見守り等のケアを行っている。		